厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
ホルモン受容機構異常に関する調査研究
分担研究報告書
バセドウ病眼症の病因・病態の解明と診断・治療法の開発に関する研究

研究分担者　廣松雄治　久留米大学医療センター　病院長（教授）

研究要旨：
１）日本甲状腺学会、日本内分泌学会の臨床重要課題「バセドウ病悪性眼球突出症の診断指針と治療指針」の改訂を行った。さらに「甲状腺眼症診療の手引き」をまとめている。
２）ステロイド・パルス療法の有効性と安全性に関する多施設共同前向き研究を継続した。
３）国内で開発中の新しい TSAb 法が眼症のバイオマーカーとして有用であることを論文に準備中である。
４）喫煙と眼症の関連について特に MRI 所見との関連性を明らかにし、論文に公表した。

A．研究目的

1. 「バセドウ病悪性眼球突出症の診断指針と治療指針」の改訂とその周知
2. ステロイド･パルス療法有効性と安全性に関する多施設共同前向き研究
3. 眼症のバイオマーカーの開発
4. 眼症のリスク因子、予後因子の検討

B．研究方法

1. 年に 3 回会議での改訂についての討議や、甲状腺学会や内分泌学会での教育講演や学術雑誌などでの周知およびパブリックコメントを経て、改訂版の公開を図る。
2. ステロイド･パルス療法有効性と安全性に関する多施設共同前向き研究を推進する。
3. 新しく開発された TSAb やその他のバイオマーカーについて、これらの臨床的意義について検討する。
4. 喫煙と眼症との関係について検討する。

（倫理面への配慮）
連結可能匿名下のもとに前向き研究を行っており、個人情報が漏れる心配はない。本学の倫理委員会の承認後、文書による説明・同意を得て行っている。

C．研究結果

1. 日本甲状腺学会のホームページ上に「バセドウ病悪性眼球突出症の診断指針と治療指針 2018」を公開した。
（http://www.japanthyroid.jp/doctor/img/basedou02.pdf）
さらに「甲状腺眼症診療の手引き」の刊行予定である（現在、第３校正中）。
2. ステロイド･パルス療法の有用性に関する多施設共同研究：現在 6 施設で継続中である。
3. イクオリン発光を用いた新しい TSAb 測定法の有用性について、日本甲状腺学会や国際甲状腺学会にて報告し、現

在、論文にまとめている。

4. 本学にてパルス療法を受けた症例 92 例を対象に喫煙と眼症の関連性を検討し、喫煙が眼症の重症度と関連するリスク因子であることを論文にまとめた。MRI で評価した眼症の重症度との関連をみた最初の報告である。

5. 本学にてパルス治療を行いその後追加治療が必要であった症例を対象に、予後の予測因子について解析した。治療前の因子としては CAS と MRI で計測した後眼窩面積が、パルス療法 1 か月後の因子では CAS、腫大筋の信号強度比、後眼窩面積が有意なリスク因子として抽出された。現在、論文にまとめている。

D．考察

MRI を導入した「バセドウ病悪性眼球突出症の診断指針と治療指針」の改訂を行った。MRI を組み込んだ指針は世界で最初であり、今回の改訂ではさらに利便性の向上を図った。眼症の病態を適切に評価し、その病態に応じた診断・治療指針であり、眼症の診療に寄与するものと期待される。
眼症のバイオマーカーとして国内で新たに開発された TSAb 測定法はバセドウ病眼症のついて有用性が高い。英文誌を通じて世界に発信予定である。
喫煙は眼症の重症度と関連するリスク因子であることを再確認した。

E．結論

1. 「バセドウ病悪性眼球突出症の診断指針と治療指針 2018」をまとめた。眼症の前向き研究を継続し、今後はエビデンスに基づく指針の改訂を行う予定である。

2. 新しい TSAb 測定法は眼症の有用なバイオマーカーとして期待される

F．健康危険情報

該当なし

G．研究発表

1. 論文発表

1) 江口洋幸、中村由育、谷淳一、山田健太郎、児玉良太郎、手島靖夫、廣松雄治：喫煙とバセドウ病眼症の関連、日本体質医学会雑誌、80（1）：13-21、2018.

2. 学会発表

1) 廣松雄治:バセドウ病悪性眼球突出症（甲状腺眼症）の診断基準と治療指針、第 60 回日本甲状腺学会学術集会、大分、2017 年 10 月 5-7 日

2) 廣松雄治:甲状腺眼症の診療ガイドライン update、第 90 回日本内分泌学会学術総会、京都、2017 年 4 月 20-22 日

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

特記事項なし